
歩道の側で

雷鳥

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

歩道の側で

【Nコード】

N8963Y

【作者名】

雷鳥

【あらすじ】

銀杏のある1日について。

（前書き）

何か、沢山物足りないような気がしながら、投稿しました。最後まで読んでもらえたら、嬉しいです。

車道に車やトラックが、ごおごお通る。ごおごおすれ違いあい、ごおごお走って行く。

車道の脇を自転車が、びゅんびゅん走って行き、のろのろ歩いて行く。びゅんびゅんすれ違いあい、のろのろすれ違いあって、びゅんびゅん走り、のろのろ歩いて行く。

私は、いつも歩道の車道側の脇で見ている。

いや、眺めている。車や自転車とは違う物も見ている。眺めている。この地球をマリンブルーとでも言うのだろうか、青色に染まっている海のように広く青い空の上を飛び交う鳥や、私の体の前や後ろを飛び交ったり、アスファルトの上を てくてく、のしのし歩いて行く虫。

そして、私をこのような所へ植えた「人」も見ている。眺めている、眺めるしかないのだ。

「人」と言う物は、大変興味深い物である。私は、最近になってこの街に来、「人」と呼ばれる物を知ったのである。近所のおじさんが、教えてくれたのである。

おじさん曰く、「『人』と言う物は、二人以上でいると、がやがややかましく話したり、幸せそうな笑みをうかべながらの会話や、悲しそうな顔をして沈みながらぼそぼそと会話をしよる。」と。

そのような事は、生まれた時から知っております。私が、そのように申したら、「最後まで聴かんか。」と、若い実を膝に落とされたのである。

「最近の若い『人』は、小さなピカピカした物を耳に当てて一人で話したり、それを手に持って、なにやら指でそれを押しながら歩いておる。あまりにそれに集中しておるからか、歩道を走る自転車にぶつかりそうになっておる時が、多々ある。」と。

駅の向こうの方から、一人の若い男の「人」がそれを耳に当てながら、こつちへ歩いて来ている。今の時間帯は、道が「人」で溢れかえる時間である。

夜空にいつこの月が上り、雲が、すうまい流れている。

「人」は、真剣な表情をしながら、こちらにやって来て、私の体の前で立ち止まった。数分ほど、何やら忙しく会話をした後、急に哀しそうな表情に変わった。男は、私に体を寄せながら、頭を下に向けた。その時、私の足元に水が落ちてきた。少ししょっぱい。

「人」は小さなピカピカした物に、数回話しかけて、そして、ゆっくりとしゃがみこんだ。

私は、「人」をじっと見つめた。

（後書き）

ご感想を、書いていただけると、嬉しいです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8963y/>

歩道の側で

2011年11月26日22時49分発行